

不倒の 油画道

FROM THE 151st YEAR:
KANOKOGI TAKESHIRO RETROSPECTIVE
RETURN TO REALISM

生誕151年からの 鹿子木子皿郎

カノコギ
タケシロウ

信じた道を、
描き続けた。



重要文化財《フルマンディーの涙》(部分) 1907年 泉屋博古館東京

2026.5.22fri - 7.5sun

会期中、一部展示替えを行います。[前期]5月22日-6月14日 [後期]6月16日-7月5日

会場 | 岡山県立美術館 地下展示室

開館時間 | 9:00-17:00 休館日 | 月曜日

※5月22日(金)は10:00開館。5月30日(土)、6月27日(土)は19:00まで開館。入館は閉館の30分前まで。

観覧料 | 一般1,500(1,200)円、65歳以上*1,300(1,000)円、大学生*500(400)円、高校生および18歳以下*無料

*年齢を確認できる証明書をご提示ください。

※()内は20名以上の団体料金/障がい者手帳等をご持参の方とその介護者1名は無料/キャンパスメンバーズ制度加入校の学生は無料

主催 | 岡山県立美術館、山陽新聞社 特別協力 | 府中市美術館

後援 | 岡山県郷土文化財団、公益社団法人岡山県文化連盟、一般財団法人岡山県国際交流協会



岡山県立美術館
OKAYAMA PREFECTURAL MUSEUM OF ART



《婦人像》個人蔵



《豊後風速洞の古話》1927年 岡山県立美術館

鹿子木孟郎が生涯追い求めた、揺るぎない写実と構築的な油彩表現。 その歩みを初期から晩年まで一望する回顧展。

生誕152年を迎える洋画家・鹿子木孟郎（1874-1941）の画業を総覧する展覧会を開催します。鹿子木は岡山で松原三五郎に学び、幼少期から西洋の思想や精神文化に触れる環境に育まれました。こうした初期体験は、のちに彼が追い求める写実への強い志や、自然や人物を“あるがままに”描こうとする姿勢の底に息づいています。その後、上京して不同舎で小山正太郎に師事し、画学教員としての勤務を経て米国経由で渡仏。パリのアカデミー・ジュリアンでジャン＝ポール・ローランスに学び、堅



ジャン＝ポール・ローランス《マルソー將軍の遺体の前のオーストリアの参謀たち》1877年 泉屋博古館東京

固な写実と構築的な画面を基盤に独自の油彩表現を確立しました。帰国後は京都を拠点に後進の育成にも力を注ぎ、日本洋画史に確かな足跡を残しています。

本展では、初期から晩年に至る代表作を通して、鹿子木が生涯追い求めた「不倒の油画道」とも呼ぶべき制作姿勢を紹介します。人物・風景・歴史画など多彩な主題に取り組みながら、一貫して対象の内に潜む精神性を見つめ続けたその歩みを、岡山の地であらためて見つめ直します。鹿子木芸術の全貌に触れる貴重な機会となる本展に、ぜひご期待ください。

記念講演会 要観覧券(半券可)
「鹿子木孟郎を、もう一度」

日時 5月23日(土) 14:00～15:30
講師 野地 耕一郎氏(泉屋博古館東京館長)
会場 2階ホール
定員 210名(先着順)

美術館講座 要観覧券(半券可)
「鹿子木孟郎の全貌
—写実の奥に宿る精神と象徴」

日時 6月13日(土) 14:00～15:30
講師 橋村 直樹(当館学芸課長)
会場 地下1階講義室
定員 70名(先着順)

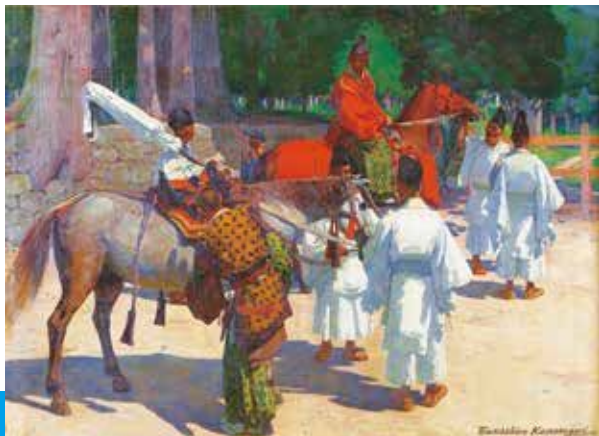
美術の夕べ 要観覧券

担当学芸員によるフロアレクチャー
日時 6月27日(土) 18:00～19:00
講師 橋村 直樹
会場 地下1階展示室

関連イベント



《ショールをまとう女》1906-07年 府中市美術館



《加茂の競馬》1913年 株式会社三井住友銀行蔵(泉屋博古館東京寄託)



《大正12年9月1日》1924年 東京都現代美術館

交通案内 可能な限り公共交通機関をご利用ください。

〔JR岡山駅 後楽園口(東口)から〕

- 徒歩 15分
- 路面電車 「岡山駅前」電停 東山行「城下」電停下車 徒歩3分
- 宇野バス 11番のりば 瀬戸駅、長岡・駅前、長岡団地、八日市、片上行／四御神行／表町BC行「表町入口」下車 徒歩3分
- 岡電バス 1番のりば 藤原団地行「天神町」下車すぐ



岡山県立美術館
OKAYAMA PREFECTURAL MUSEUM OF ART

〒700-0814 岡山市北区天神町8-48
TEL: 086-225-4800 FAX: 086-224-0648
E-mail: kenbi@pref.okayama.lg.jp
https://okayama-kenbi.info/

